

きら読 DAYORI

No.174 令和8年5月

きらり きらきら 読書だより

3月20日(金・祝)に第11期こども司書の卒業を記念して交流会を開催しました。当日はR&Lが運営を担当し、第11期生卒業式・活動についてのミーティング・三郷のいいとこカルタ・ブックトレードを行いました！ミーティングでは「小さい子から大人までみんなが笑顔になってくれてやりがいを感している。」「こども司書の活動をもっと広めたい。」といった会話が聞かれました。

第11期こども司書卒業記念交流会



希望の郷読書フェスタ



3月7日(土)の希望の郷読書フェスタにて「こども司書おはなし会・ブックトレード」を行いました！

小学生の皆さま～ん！

こども司書になって一緒に活動しませんか？
小学校6年生になると「こども司書養成講座」に申し込みをすることができます。講座に参加して司書の仕事や読み聞かせの仕方を学び、こども司書として認定されたら活動スタート！（毎年6月頃、市内の小学校6年生に講座の案内を送っています。）



こども司書の活躍が三郷市HPに掲載されています。ぜひご覧ください！



子ども読書の日

シェイクスピアとセルバンテスの命日である4月23日を「世界・本と著作権の日」とユネスコが宣言していることなどにちなみ、4月23日は「子ども読書の日」と定められています。



「子ども読書の日」が4月23日なので、三郷市では4月16日～4月30日を「三郷こども読書週間」としており、ららぽっとみさとにて、こども司書の活躍紹介などの展示や出張ふれあい文庫を行いました！（展示期間：4月16日～5月7日）

ふれあい文庫

貸し出し手続きをせずに自由に本が借りられる小さな読書スポットです。
市内32カ所（R8.4現在）に設置されているのでぜひ利用してみてください！



3月5日(木)にふれあいブックサポーターに集まっていただき、本の整備を行いました。ブックカバーをかける作業は本を長く、きれいに使い続けるためのとても大切な作業です。整備をした本は、ふれあい文庫に並びます！



ふれあい文庫の本の整備



編集・発行：三郷市教育委員会生涯学習部
日本一の読書のまち推進課 ☎ 048(930)7818
〒341-8501 三郷市花利町648番地1 FAX048(953)1160



私がこの本を紹介しようと思ったのは、この本を書いている作者の具体的な例え方がとても面白く、分かりやすく、そして登場する二人の他者への気持ちと勇気が文から感じられるからです。皆さんも、少年二人の大ぼうけんを最後まで見届けませんか。

この本は、二人の少年ゼツペルとカスパールがおばあさんにプレゼントした大切なコーヒー引きを大どろぼうホツツエンプロッツに盗まれてしまったため、それを取り戻すために大ぼうけんをするお話です。ですが、相手は本職のどろぼうです。取り戻すことができるのか、少年達の工夫をこらし

『大どろぼうホツツエンプロッツ』

オトフリート・プロイスラー/作 中村浩三/訳
フランツ・ヨーゼフ・トリップ/画 借成社

た作戦も必見です。

私がこの本を読んで最も心に残った場面は、カスパールが敵の大魔法使いペトロジリウス・ツワツケルマンにも恐れることなく、禁止されている地下室の三つのとびらをくぐったところです。うす暗い地下室で、何よりそこが敵の屋敷だというのに、歩を進めていくことのできる少年の勇気がすごいと思えました。さらにカスパールは、過去に一度、ツワツケルマンに痛い目にあわされているのです。それでも折れずに再び立ち上がれるところが、この場面が心に残った一番の理由です。

立ち向かう勇気

この紹介文、もしくは『大どろぼうホツツエンプロッツ』を読んだことをきっかけに、思い切った立ち向かう勇気を深めたり、よりたくさんの本とふれあったりしてもらえたら嬉しいですね。



三郷市子ども司書 14期生

福士 こはるさん

「じじろに響く言葉」私の本棚

「じじろのままの自分が好きです。」

「人と違っていたらダメなのかな。」そんな風に思ったことはありませんか。このお話は、私たちと同じような悩みを持つ女の子、アデイのお話です。

このお話の主人公アデイは、自閉的な一面があります。自閉的というのは、音や目に映るものが感じやすくなってしまったり、人の表情を読み取るのがすごく大変だったりするものです。それにより、少し変わっているというだけで先生に厳しくされたり、クラスメイトにいじめられたりして、アデイはすごくつらい思いをします。ある日アデイは、自分と同じように「ちょっと人と違う」というだけで魔女と言われた人たちのことを知り、その人たちのための慰霊碑を建ててもらえるよう活動します。家族や友達との生活を通

『魔女だったかもしれないわたし』

エル・マクニコル/著 柳田理絵/訳 PHP 研究所

して、アデイは成長していきま

私が心に残った場面は、アデイが村の委員会で魔女の慰霊碑についてスピーチした場面です。この場面以外でもアデイは何度かスピーチしてきましたが、「大昔のことだから」という理由で反対されてしまっていました。しかし、姉達に背中を押され、アデイはもう一度スピーチすることができました。私がアデイの立場だったら諦めてしまっていたので、アデイはすごいと思えました。スピーチでアデイは、慰霊碑のことだけではなく、周りと違う自分を受け入れてこのままの自分が好きだと話していました。この言葉で私は、「どんな自分でも自分を好きでいていいんだ」と思えたと同時に、とても勇気をもらえました。私

ありのままの自分

は、失敗してしまったりときなどに「どうしてだろう」と考え込んでしまい、自分を嫌いになってしまることがあります。でもこの話を読んで、「このままの自分が好きになってみようかな」と思えました。

辛いこともあったのに、勇気を出して挑戦するアデイに勇気や自信をもらいました。皆さんもぜひこの本を読んでみてください。



三郷市子ども司書 14期生

吉川 文香さん